

## 日本一の<sup>うみじろ</sup>海城に和船就航

6月初旬、玉藻公園のお堀に和船「玉藻丸」<sup>たまもまる</sup>が就航しました。この和船は、松平家の初代頼重公が入府した1640年代頃の高松の城下町を描いたとされる「高松城下図屏風」において、堀に描かれた和船を参考に松平公益会が建造され、市にご寄贈いただいたものです。

ご承知のとおり、高松の町は天正15年（1587年）讃岐一国の領主となった生駒親正によって、当時「野原」と呼ばれていた港町に城が築かれたところから始まっています。この城は、かつては城壁が海に直接面し、外堀・中堀・内堀の全てに海水が引き込まれ、城内に直接軍船が出入りできるようになっていました。水軍の運用も視野に入れ設計されており、近世城郭の海城としては最初で最大の例とされています（注）。

「讃州さぬきは高松さまの城が見えます波の上」と、古くから伝わる民謡に謳われていることでもその特徴がよく分かります。お堀の中には、当然、鯉ならぬ鯛などの海水魚がたくさん泳いでいます。目の前の美しい瀬戸内海の風景と相まって、鯛やヒラメが舞い踊る華やかな竜宮が脳裏に浮かんだのでしょうか、昭和6年にこの地を訪れた与謝野晶子は、「わだつみの玉藻の浦を前にしぬ高松の城竜宮のごと」（わだつみ=海の神霊）との歌を残しています。

今年は、水戸の水術「水府流」の流れをくみ松平頼重公が水練に用いたという「水任流」発祥から370年の節目の年に当たります。去る6月2日には、「玉藻丸」のお披露目も兼ねて、記念の英公様追悼游泳祭が開催されました。恐れ多くも、高松松平家と水戸徳川家の当代ご当主お二人と一緒に私も和船に乗り、泳ぎながら運ばれてきた酒と鯖を口にして、「あっぱれ」な各流派の泳法を観覧させていただきました。

「玉藻丸」の「<sup>じょうせん</sup>城舟体験」は大人一人500円。航行中は船頭のガイドを楽しみながら遊覧し、お堀の鯛に餌をあげることもできます。大名気分を味わうもよし、はたまた竜宮の乙姫様の気分を味わうもよし。屏風絵の中に入り込んだような、非日常の時空を是非お楽しみ下さい。

（注）「ビジュアル・ワイド 日本名城百選」（小学館）より